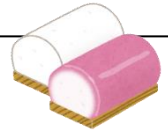


第4学年 総合的な学習の時間の実践

1. 単元名 「小田原子ども観光大使」(全65時間 本時18時間目)

2. 単元目標

単元目標 自分たちの地域に興味・関心を持ち、小田原の名産であるかまぼこを作る体験やそれを使った料理を
る活動を通して、小田原市の魅力を発信することができる。



3. ひびきあう三の丸の子どもたちをめざすための指導の工夫

研究課題「切実な問題意識を持ち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成」

手だて・・・子どもの願いや思いを見とった単元構想と授業づくり

ブロックテーマ「追究する力、仲間と支え合う自分」

・自分の問題をとことん追究する姿 ・仲間と協働して追究する姿

クラスにおいて「聴く」「話す」のルール作りを児童と行い、それらを意識して授業に取り組んできた。「聴く」については、昨年度にくらべ成長が見られる。基本的には話をよく聴こうとしている児童が多く、手いたずらをすることは少なくなってきた。基本的な聴くマナーが身についてきたからこそ、メモを取りながら話を聞くことや自分の考えと比べながら聴くといったレベルを目指すように児童と目標を決めた。「話す」については、自分の話をする時に短く話すことや根拠を示すといった基本的なことだけでなく、話し合いを深めるための『司会言葉』というものを指導していった。例えば、「この意見について賛成の人は意見を言ってください。」「今の意見について、近くの人と話し合ってください。」といった司会進行をする言葉を誰もが普段の授業の中で使っていけるように教えていった。これらの『聴く・話す』については、授業の最後の場面や帰りの会などに必ず、「話す・聴くどれを頑張れた？」と児童に自己評価をさせ、その際特に頑張っていた子を取り上げてほめるなどをしながら定着を図るようにしていった。

また、ひびき合いの素地を育てるために、クラス遊びや係活動などを多く取り入れていった。例えば、係活動ではグループの中で次のイベントに向けて何をやるのか話し合わせる時間を、金曜日の給食の時間に必ず実施した。小集団の中で話し合う活動を通して、自分の意見を伝えたり、友だちの意見に対して賛成や反対の意見を伝えたりする経験をできるようにした。また、授業の中では、国語や理科、社会などを通して、児童の意見にずれが生まれる課題を提示し、それらを話し合わせる時間を取るようにした。この際、できるだけ教師が話し合いに参加しすぎないように、児童に任せるような形を心がけた。

4. 単元と指導について

<単元について>

今回、総合的な学習の時間の単元を設定するにあたり、地域との関連を大切にすることを意識した。これは学習指導要領の指導計画の作成と内容の取扱いにおいて『地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題』を設定することが明示されているからだ。また、学校の教育目標『地域で学び 響き合う 未来を創る子どもたち』を目指していく上で、総合の学習においても地域から学ぶ取り組みをしていきたいと考えた。そこで、児童には総合のテーマを考える上で、『地域』と関連したテーマを自分たちで考えるように投げかけた。その中で、児童が話し合いの末に取り組むことを決めたのが、『小田原子ども観光大使になろう』という活動であった。具体的には、地域の名物であるかまぼこを作る体験をし、そのかまぼこを使って名物料理を考え、それらを商品としてかまぼこ屋さんに置いてもらい、小田原の魅力を観光客の人たちに知ってもらおうという取り組みである。地域のことからこそ、インターネットだけで調べるだけでは分からない情報や地域の人たちと関わる活動が生まれてくると考えた。

今回、単元を通してもう1つ大切にすることが『プロ』との出会いである。7月までに児童はかまぼこ屋さんの山上さんの協力のもとに、かまぼこ作り体験をすることができた。9月から取り組み始めているのは、それらの経験を

もとに、かまぼこを使った料理を自分たちで考える活動である。「観光客の人たちに自分たちが作った料理を食べてもらうためにも、かまぼこ屋さんの協力が必要だよ。」「かまぼこ屋さんに自分たちの料理を売ってもらえないかな？」という児童の意見から、鱈吉の田代さんをはじめとする『かまぼこ通り活性化委員会』の人たちに協力をお願いすることになった。教師がお願いすればすぐに協力はしてくれるだろうが、このお願いをする経験とそれが成功した経験は、児童の学習に対しての切実感を高めていくと考えた。そこで、お願いする際の依頼の言葉をみんなで考え、かまぼこ通り活性化委員会の会議に出席し自分たちの言葉でお願いをする経験をさせた。この経験により、児童がこの取り組みに対して、主体的になっていったと感じている。『地域』そして、それを通して『プロ』と出会う中で、「小田原の魅力を発信する」という自分たちの願いを実現していく探究的な活動を目指していきたいと思いこの単元を設定することとした。

<指導について>

総合のテーマ自体は児童が自ら考えたテーマではあるが、切実感がどの児童も最初から高かったわけではない。中には、かまぼこよりも干物のことをやりたかった児童も最初はいた。しかし、本物のかまぼこ作りを体験したり、かまぼこ屋さんへの協力をお願いしたり、自分たちがプロのかまぼこ屋さんにプレゼンをするなど、自分たちが決めたテーマを追究していく中で、切実感が高まっていったことを感じている。

本時の切実な問題は『調査したことを元にかまぼこ料理のアイデアを3つにしばろう。』である。児童は一回目の田代さんへのプレゼンを通して、3つの課題をもらった。そのうち、売る人の対象を明確にすることとその対象のニーズの調査することについては、自分たちにできる範囲での修正をした。その上で、最後の課題にあたるのが6つあるアイデアを3つにしばることである。児童は、田代さんから全ての料理が商品になるわけではないという、プロの世界の厳しさを一回目のプレゼンで学んでいる。本来、どの子も自分たちが提案した料理が商品になってほしい。しかし、それは叶わない現実との間で児童は葛藤する。「自分の料理が商品になった方が良い。」ということを客観的なデータをもとに仲間に伝えることはもちろん、友だちの料理に対する課題も伝えて、反対意見を述べなければならない。多数決で決めてしまうのではなく、どうやって合意形成をしながら6つある自分たちの料理を3つにしばるかは、切実な問題となると考える。

本時では、6つある料理を3つにしばる話し合いを通して、**お互いの意見のずれから、より商品として本当に売れるものはどれなのか根拠をもって話し合う姿をひびき合いの姿**としていきたい。話し合いの根拠が「こちらの方が美味しそうだから。」といった漠然としたものにならないように、グループごとにプレゼンした資料を児童同士が見えるように提示することを大切にしたい。また、話し合いが焦点化しづらい状況であれば、『小田原市の観光客のデータ』などを提示することを通して、話し合いを焦点化しやすいように手立てをとっていく。例えば、客層が高齢者の方が多いデータを見せることで、「子どもを対象とした提案では売れないのではないか？」「だからこそ、子どもを連れた家族の観光客を増やすチャンスになるよ。」といった意見の焦点化を期待している。

また、児童は話し合いを通して、どうやって3つ意見にしばれば良いのか、途中悩むことは予想される。おそらく本時の1時間だけでは解決することはないと思われるため、3時間この話し合いのために確保している。もちろん、教師がすぐに解決策を提示することは簡単だが、あえて焦らず児童なりの結論にいたるまで待つことを大切にしたい。児童が必死に考える中で、自分の思いだけを伝える話し合いをするのではなく、相手の思いを理解し、お互いの妥協点を見つけていくような話し合いを期待したい。

5. 単元構想

第4学年 総合「小田原子ども観光大使になろう」全65時間

単 元 目 標

自分たちの地域に興味・関心を持ち、小田原の名産であるかまぼこを作る体験やそれを使った料理を作る活動を通して、小田原市の魅力を発信することができる。

3年生の時の総合の学習を振り返ろう。①②

【1組】・自分たちが住んでいる地域を伝える番組を作ったよ。・何度も自分たちで撮影して、その映像を懇談会で家の人に見てもらった。

【2組】・フランスの子どもたちに手紙を送ったよ。・自分たちでパソコンを使ってフランスのことや小田原のことを調べて、模造紙にまとめた。

【3組】・先生たちへの恩返しに料理作りをしたよ。・最初は何度も失敗して、全部で5回くらいやった。・最後には、学校の先生を招待して、料理を食べてもらったんだ。

＝ ＝ ＝ ＝ ＝
3年生の学習を想
起し、自分たちの
身に付けた力をも
とに課題を考える
ことができる。【課
題設定力】
＝ ＝ ＝ ＝ ＝

⇒自分たちが身に付けてきた力【地域の魅力を映像などで伝える力】【パソコンなどで情報を収集しまとめる力】【料理を調べたり、実際に料理する力】

3年生で身に付けた力をいかして何ができるかな。

総合のテーマについて考えよう。③～⑤

・地域の名物を作ったり、体験してみたい。・かまぼこや干物を作る体験ができないかな。・誰か教えてくれる人いるかな。・小田原市の名物を使って、料理をしてみたい。→わくフェスとか地域のお祭りで食べてもらいたい。かまぼこを使った料理とかならできるんじゃない。

・小田原市の有名な場所を観光客の人に紹介してみたいな。実際に地図とか作って、小田原駅に置けないかな。

・小田原のことを紹介した映像とか作れないかな。・観光客の人にパンフレット渡したいな。どれもやってみたいけど、どうする？・体験だけでもあんまり意味ない気がする。・3つともやるのは時間的に難しいかも。・60時間もあるんだから、きつとできるよ。

小田原の名物を作る体験をして、その名物を使って料理を考え、それを観光客に紹介しよう。

★★★小田原子ども観光大使になろう★★★

・何の体験をさせてもらう？どこで体験できるかな？

体験させてもらえる場所について考えよう。⑥～⑦

・夏みかんとか果物を収穫するのはどうかな。・干物を作る体験は面白いと思う。

・今回は時間もあまりないか、一度勉強したかまぼこが分かりやすいと思う。・近くのかまぼこ屋さんに頼めるかもしれない。

・山上さんだったら頼めるかもしれないよ。・料理を作ることを考えると、かまぼこなら色々な料理ができる気がする。

かまぼこの体験をどこで体験させてもらえるかな。

・鈴廣のかまぼこ博物館で体験できたよ。・でもお金がかかりそうだね。・それ以外のお店はどうか。

・山上さんに協力してもらえないかな。・僕のお兄さんとかは三の丸で体験したことあるって言っていたよ。

・じゃあ、山上さんに電話で聞いてみよう。

山上さんにかまぼこ作り体験のお願いをしよう。⑧

・山上さんにだれが電話でお願いする？・お願いするとしたら、しっかりとした言葉でお願いしないと、失礼だよ。

・山上さんに電話するつもりで、言葉を考えてみよう。

・代表のAさんとBさんの電話の仕方にアドバイスあります。

＝ ＝ ＝ ＝ ＝
山上さんにお願
いする活動やかま
ぼこ作りの体験を
通して、地域の
人と積極的に関
わること
ができる。【人
やものとかかわ
る力】
＝ ＝ ＝ ＝ ＝

山上さんが学校でかまぼこ作りの体験をさせてくれるよ！！

山上さんに教えてもらってかまぼこ作りの体験をしよう。⑨～⑪

・全然、きれいな形にならないよ。・板つけてこんなに難しいんだ。

・職人の人がやるとあんなに簡単そうなのに、僕らには難しいね。・かまぼこの身から、はんぺんやちくわができるのってすごい。

・自分たちで作ったかまぼこ美味しいね。・料理を作る時に、かまぼこには何が合うかな？・醤油の味付けとかは合いそうだよ。・早くかまぼこの料理作ってみたいね。・料理のことも調べないと、作れそうにないよね。

次はかまぼこの料理を考えよう！！

かまぼこ料理について考えよう。(誰に作る、どうやって作る?)⑫～⑭

★だれのために作る? →観光客の人たち、家族、学校

★どうすれば、観光客の人に食べてもらえるかな?

- ・お店で置いてもらえないかな。・3年生の時に習った1月15日のかまぼこまつりで食べてもらいたい。
・実際にお祭りとかで売るのは難しいから、作った料理を紹介するだけでいいんじゃない。
・自分たちがお祭りで作るのは難しくても、かまぼこ屋さんの人に紹介してお店のメニューに加えてもらえるようにお願いしようよ。・3年生で習った活性化委員会の田代さんに頼んでみようよ。

★自分たちだけで、本当に作れるかな?

- きつとできるよ! ・この前、かまぼこ作り体験で協力してもらった山上さんに協力してもらおうよ。
・かまぼこ通りのかまぼこ屋さんにはアドバイスもらおうよ。・鈴木淳子先生に聞けば、料理のこと教えてくれるよ。
・ばくのお母さん、かまぼこ料理作ったりたまにするから多分、協力してくれるよ。

★どうやってかまぼこ料理の作り方を考える?

- ・パソコンでかまぼこ料理を調べればよいと思う。・家の人に取材して、おすすめの料理を作ろう。
・本で調べる。・一人で作るのは大変だからグループで活動した方がいい。

◆活性化委員会の田代さんたちからの返事

- 「みなさんの取り組みは素晴らしいと思います。ぜひ協力させてください。」→協力OK
・かまぼこ使った料理なら、かまぼこ屋さんで売ることよりも3月にある『かまぼこ桜まつり』で売ってみるのもいいかもしれない。
・まずは、どんなものを実際に作りたいのかプレゼンをしてもらって、少しずつ形にしていければいい。

かまぼこの料理について調べて、どんな料理が良いか考えよう

観光客の人に食べてもらう料理のメニューを考えよう。⑮～⑳【本時18時】

★田代さんにどんな料理を作りたいのかプレゼンしよう。

◎かまぼこの料理について調べ学習→パソコン、本、家の人に聞く、自分で考える。

- ・みんなのアイディアの中から、何を作ったらいいか考えよう。

アイディア例→・かまぼこハンバーグ・かまぼこアイス・かまぼこ串・かまぼこチャーハン・かまぼこフライ
・かまぼこチーズの磯辺あげ・かまぼこやきそば・かまぼこチーズかつ など

★料理を選び、グループに分かれてプレゼン資料を考えよう。

かまぼこチャーハン	かまぼこの磯辺あげ	かまぼこフライ	かまぼこのチーズかつ	かまぼこの海苔巻き	かまぼこ生ハム
-----------	-----------	---------	------------	-----------	---------

◎プレゼンで伝える内容は?→料理名、選んだ理由、見た目(イラスト)、作り方、材料、オリジナル(工夫)、かまぼこの良さの何を意識したのか

◆田代さんからのアドバイス

- ①観光客の誰に食べてもらうかもとしぼる。→観光客の子どもなのか、若者なのかおじいちゃん・おばあちゃんなのか
②その人たちはどんな物が好きか調査する。→おじいちゃん・おばあちゃんはどうなのが好きなのか。
③6つある料理を3つまでしぼる。→6つ全てを商品にすることは難しいので、3つまでしぼってほしい。

★田代さんからもらったアドバイスをもとに、考えよう。

- ・誰に食べてもらう?→私のグループはおじいちゃん、おばあちゃんがいいかな ・私たちは外国の人に食べてもらいたい。
・どうやって調べる?→子どもたちが食べてみたい味を調査しよう。・おじいちゃん、おばあちゃんにインタビューしよう。

【本時】調査したことを元にクラスで、アイディアを3つにしぼろう。(18～20時)①対象②調査結果

かまぼこトースト	かまぼこの磯辺あげ	かまぼこフライ	かまぼこのチーズかつ	かまぼこドック	かまぼこ生ハムまき
①子ども(小学生) ②子どもたちにビザトーストが好きかどうかアンケートをとりました。アンケートの結果から、子どもたちはビザトーストが好きだということが分かりました。かまぼこビザトーストに載せる食材も子どもが好きなものにしました。	①子ども(小学生) ②給食で出てくるちくわの磯辺上げの人気調査をしたところ、子どもたちにとっても人気なことが分かりました。ということ、かまぼこでやっても人気が出る可能性があります。また、鈴木淳子先生からも料理についてアドバイスをもらいました。	①大人(20～50代) ②学校の先生たち20人にインタビューをしたところ、かまぼこフライに合う味付けはソースやタルタルソースということが分かりました。また、かまぼこをフライにして食べたことがある人も少ないことが分かったので、珍しさもあって売れると思います。	①子ども(小学生) ②チーズが好きな子どもがどれくらいいるかアンケートしたら、60%以上いました。また、チーズと合わせたもので人気のものがたくさん売られて出ているのでいいと思います。(チーズバーガー、サンドウィッチなど)	①大人(20代～50代) ②かまぼこの魅力は弾力だとインタビューから分かりました。その弾力を残したかまぼこドックを考えました。味付けも先生方に聞いたところ、照り焼き味が人気でしたし、これまでかまぼこ桜祭りでも作られたことがあるので、売れる可能性が高いです。	①子ども(小学生) ②かまぼこ野菜を組み合わせることでかまぼこの臭みが取れることが調べたら分かりました。また、子どもたちへのアンケートからこの料理に合うものがチーズだということが分かりました。これを入れた料理を考えています。

【話し合いの意見】

- ・かまぼこビザトーストはお昼の時間帯には買ってもらえるかもしれないけど、手軽に食べられないから観光客向きではないと思う。
・かまぼこの磯辺上げは、揚げ物が好きな子どもが多いから、遊びに来た子どもも買ってくれる気がする。 ・でも、竹輪の磯辺上げとあまり変わらないから、食べてみていってあまり思わないよ。 ・かまぼこフライは、味付けが色々あって、色々な年齢の人に食べてもらえそう。 ・何で、フライにする必要があるの?そのままじゃだめなのかな。 ・チーズが好きな子どもが多いなら、かまぼこのチーズかつは人気が出るんじゃない。・かまぼこ生ハムの野菜が入っているのは見た目もきれいでいいと思う。

★田代さんにもう一度プレゼンしよう。(21時)

田代さんからOKをもらう。→「次は試作品を作ろう!」「家の人にも協力してもらいたいね。」「淳子先生にも協力してもらおうよ。」

かまぼこ料理を試作してみよう。22～42

1回目作る→校内の先生や対象としている年代の人からアドバイスをもらう。

2回目作る→かまぼこ屋さんの方に来て頂く。かまぼこ通り実行委員会のメンバー

3回目作る→かまぼこ屋さんの方に来て頂く。かまぼこ通り実行委員会のメンバー

☆かまぼこ屋にて商品が販売される。(時期は1月以降)→かまぼこ桜祭りの可能性あり

・ばくたちの考えた料理をどうやったら、買ってもらえるかな?

◆かまぼこ屋さんにも協力してもらえようようにお願いに行こう。

・かまぼこ通り実行委員会の人にもお願いにいかなくや。 ・だれがお願いに行く? ・どうすれば料理を出させてもらえるかな? ・実際に食べてもらって、料理として出せるか決めてもらったら
どうかな。 ・まずは、田代さんに直接お願いに行きたいね

→かまぼこ通り活性化委員会で提案

◆国語『調べたことを整理して発表しよう。』と関連させて学習する。(15時間分)

『かまぼこ料理についてパソコンや人から情報を収集することができる。【情報活用力】』

『先生や友達の見解や資料を参考にして、より良い料理を選ぶことができる。【問題解決能力】』

『かまぼこ料理を完成させるために、仲間と協力し、学校の先生や地域の方からアドバイスをもらいながら活動することができる。【人やものとかかわる力】』

小田原の魅力を観光客の人たちに伝えよう。

自分たちの考えたかまぼこ料理をどうやったら食べてもらえるかな？ 4 3～4 5

- ・かまぼこ通りのことを地図にして、お店のことやかまぼこのことを紹介しよう。
- ・かまぼこの料理の作り方を映像で撮ったらどうかな。 ・映像をユーチューブで発信したい。
- ・かまぼこの料理のチラシを作ってみよう。 ・かまぼこの料理を紹介する本を作ろうよ。
- ・かまぼこの料理の宣伝をするポスターを作って、お店に貼ってもらおう。

グループに分かれて、かまぼこの料理のことを宣伝しよう。

かまぼこ料理のことを宣伝しよう。 4 5～6 3

＝ ＝ ＝ ＝ ＝
 〓 かまぼこ料理を食
 〓 べてもらうため、料
 〓 理について宣伝す
 〓 る情報をまとめ、観
 〓 光客に向けて発信
 〓 することができる。
 〓 【表現力】
 〓

かまぼこ料理 ムービー	かまぼこ料理 パンフレット	かまぼこ料理 のチラシ	かまぼこ通り マップ	かまぼこ料理ポスター
・作っている様子を映像に撮ったらどうかな。 ・作る人と説明する人、撮影する人など役割分担がいるね。 ・説明するように画用紙に言葉を書くといいかもね。	・かまぼこ料理の手順を詳しくパンフレットにしよう。 ・写真や絵を使って、分かりやすくしたいね。 ・自分たちが作った以外の料理も紹介したらどうかな。	・自分たちが作った料理やそれを売ってくれるお店のことを紹介するチラシを作ろう。 ・料理の良さやお店までの行き方なんかも書かないとね。	・かまぼこ通りのマップをどうやって作ろう？ ・自分たちで歩いて、あるものを確認しよう。 ・かまぼこ祭りの様子とかも紹介するといいかもね。 ・写真と言葉でどこに何があるか分かりやすくしたいね。	・かまぼこ料理のポスターには何を書こうか？ ・料理についての説明とどんな工夫がされているか書くといいかもね。 ・目立つように文字の大きさや形も工夫したいね。
・撮った映像をどこに流そうか？ ・ユーチューブとかに出せないかな。 ・学校の HP に載せている学校があったから、三の丸でもやってみよう。	・作ったパンフレットをどこに置こうか？ ・小田原駅に置いてもらえないかな。 ・観光客が集まるところに置きたいね。 ・学校にも置かせてもらおうよ。	・作ったチラシはどうしようか？ ・自分たちで小田原駅でチラシをまけないかな。 ・チラシを観光客が集まるところに置かせてもらいたいね。	・作った地図はどこに置いてもらえるかな？ ・市役所の人に相談してみよう。 ・観光客が集まる小田原城や駅に置かせてもらえるといいかもね。 ・かまぼこ通り活性化委員会の人にも協力してもらおう。	・かまぼこ料理ポスターはどこに貼ってもらおう？ ・市役所の人をお願いして、どこかに張らせてもらえないかな？ ・活性化委員会の人のお店に張らせてもらおうよ。

これまでの活動を振り返ろう。 6 3～6 5

- ・かまぼこについて、去年勉強して知っていたつもりだったけど、体験をしたことで、もっとかまぼこのことを知ることができた。
- ・かまぼこ料理を作る時には、本当に完成するか心配だったけど、実際に商品として売ることができてうれしかった。
- ・かまぼこ料理について映像にまとめることで、小田原にもっともっとたくさんの観光客の人が来てほしい。
- ・今度、小田原の子ども観光大使として、小田原に来た観光客を案内してみよう。

〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓
 〓 これまでの小田原子ども観光大
 〓 使としての活動を振り返ること
 〓 ができる。【自己を振り返る力】
 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓

6. 本時について

(1) 本時目標□□かまぼこ料理を売る対象について話し合う活動を通して、小田原の魅力を伝える料理を自分たちの力で選ぶことができる。

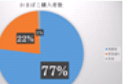
(2) 本時展開

主な学習活動

かまぼこ料理を3つにしぼろう。

かまぼこ料理を誰に売ればいいか？

☒ 高齢者（60代以上）
 ☒ 家族連れ（30代～50代+子ども）
 ☐ 若者（10代～20代）

 ・高齢者の観光客が多い。 ・今まで、かまぼこをいっぱい買っていた。 ・かまぼこを買ってくれるなら、料理も買ってくれる。 ・かまぼこ料理を広めてくれる。	・買う人はるる2%だけど、だからこそ、かまぼこを買ってもらいたい。 ・今回は料理として売るから、家族のお惣菜になる。 ・家族で買ってくれば、家族分買うから。 ・小田原の観光客が増えていかない。 ・家族の人がかまぼこのことを広めてくれる。 ・将来、子どもがかまぼこを買ってくれるようになる。 ・自分たちの料理は高齢者向けではないから。	・ほとんど買わない若者にかまぼこのことを知ってもらいたい。 ・若者が高齢者になった時に買ってくれなかったら、売り上げが悪くなる。 ・若者が小田原の各街のかまぼこを知れば、将来、家族で買ってくれるかもしれない。
 ・高齢者は今でもかまぼこを買っているから十分 ・高齢者以外の観光客が増えない。	・家族連れは、かまぼこをあまり買っていないから、売っても売れない。 ・同じような観光客の客なら、あまりかまぼこを食べていない若者へ売ってもらいたい。	・若い人はあまりかまぼこに興味がないから、売るのは難しい。 ・かまぼこは高いからあまり買わない。

・前時に既示した、観光客とのかまぼこの購入客の円グラフを既示し、本時の問題を発題する。

・『誰に売ればいいのか?』という対象について、もう一度考えさせる。

・少数量見から取り上げることで、発言しやすいようにする。

・家族連れに売ればいいという意見に傾くため、状況を見て『高齢者にはほとんど売れなくてもいいから』などの切り替えしの間をさせる。

・小田原市の観光客数やかまぼこの生産量の低下しているグラフを既示し、それをもとに考えられるようにする。

・児童が誰に売るか対象を決めたら、その対象に合う料理はどれなのか、6つの料理から3つに選ばれる。その際は既示した資料や資料も資料をもとに、再度対象に合ったものはどれか考えさせる。

・クラス全体での話し合いだけでなく、ペアやグループでの話し合いの時間を取り、全体で発言できない児童にも発言の機会を与える。

評価基準【問題解決の能力】

◆友誼と意見を交錯しながら、かまぼこを売ることについて考え、小田原の魅力を伝える料理を誰がとることができる。

7. 実践を終えて

【成果】

総合のテーマを考える上で、『地域』と関連したテーマを自分たちで考えるように投げかけた。その中で、児童が話し合いの末に取り組むことを決めたのが、『小田原子ども観光大使になろう』という活動であった。具体的には、地域の名物であるかまぼこを作る体験をし、そのかまぼこを使って名物料理を考え、それらを商品としてかまぼこ屋さんに置いてもらい、小田原の魅力を観光客の人たちに知ってもらおうという取り組みである。地域のことからこそ、インターネットだけで調べるだけでは分からない情報や地域の人たちと関わる活動が生まれていった。この中で、子どもたちの切実な問題意識は高まっていったと考えている。

また、活動を通じて、かまぼこを作るプロから、かまぼこのことや商品を開発し販売する難しさを学び、その都度課題が生まれていく中で、子どもたちの意欲は高まっていった。この点から考えると、児童にとって今回の単元全体が切実な問題となっていたと考えている。

実際、児童の変容としてもかまぼこに対して、「好きではない。」と活動当初話していた児童が、商品開発を通して、かまぼこ料理をどうすれば苦手な人にとってもおいしく食べてもらえるか、考えている姿があった。また、商品開発の話し合いをする中で、普段はあまり授業でも発言しない児童が、自分の考えを変えるのではなく、みんなに納得してもらおうと発言をする姿も見られた。このような児童一人ひとりの変容を通じて、学級全体としても、この活動に積極的な姿が年間通して見られ、授業においてもひびき合う姿が何度も見られた。

【課題】

今回、単元を通じてどうしても授業時間がかかりすぎてしまった。途中、国語と合科的に取り組むことで、時数の不足を解消はしたが、現実的に単元で取り組む内容が多かったことが考えられる。体験・料理・発信の3つのうち、体験と料理だけにしぼっても良かったと考える。

また、単元のスタート時点で、子どもたちに「何のためにこの活動を自分たちはするのか？」という目的意識が薄かったように感じた。学習のスタート時点で、活動は決めることはしたが、「何のためにこの活動をするのか？」という、最も大切な部分について、深く話し合いをしなかったため、単元の途中で改めて話し合う機会をつくることを行った。結果的には、子どもたちの目的意識は高まったが、やはりスタートの時に、時間はかかっても丁寧に学習問題を決める必要性を感じた。

本時においては、かまぼこ料理を3つにしばるため、かまぼこを売る対象を検討する話し合いを行った。話し合いをほとんどの時間子どもたちでするだけでなく、お互いに意見を関連させながら、終始話し合いを進めることができたことは良かったが、そこから話し合いの内容を焦点化するような、発問や言葉がけを教師がすることで、もっと対象と自分たちの目的とを関連させた話し合いになっていったと考えている。また、これは講師の先生から頂いたアドバイスではあるが、抽出児を選ぶ際、『この子がこんな風になったとき、ひびき合っていると理解できるのか。』を意識して選ぶことが大切であると教えて頂いた。授業の中で、どの子にどんな変容を願うのか、教師が意識することで授業の組み立てだけでなく、授業以前の関わり方も変わってくると思われる。日常の授業についても、意図的に抽出児を選ぶなどして、児童を見とる力を高めていきたい。